

せら梨ブランドを守るプロジェクトに世羅高校が取り組む

【平成 29 年 3 月 31 日掲載】

県立世羅高校では、世羅町を代表する特産品である梨を生産する世羅幸水農園（組合長理事 原田修（はらだおさむ）：経営面積 64ha）及び世羅大豊農園（組合長理事 柘宜谷 全（ねぎやたもつ）：経営面積 41ha）と連携した授業に初めて取り組み、農業経営科の 1～3 年生の 83 人が 1 年を通じて参加しました。

12 月 20 日には、世羅高校において、両農園の代表者や構成員を招いて、この一年の成果を取りまとめた成果発表会が開催されました。東部農業技術指導所からは、樹体ジョイント仕立てなど新たな栽培技術へのチャレンジ、なし栽培の更なる機械化・ロボット化の取組など、今後の産地のビジョンを説明しました。

このプロジェクトは、将来の担い手確保につなげることを一つの目的としています。この活動を通じて果樹栽培に関心を持つ生徒が増え、世羅町での就農につながることを期待しています。

東部農業技術指導所は、両園の老木の樹園地の改植を中心とした世羅なし産地の再構築の地域プロジェクトの一環として、来年度以降もこの取り組みを支援していきます。



【生徒による成果発表】



【指導所による成果発表】

情報提供元

東部農業技術指導所